

笠間市消防団組織等整備計画(案)

消防本部 総務課

目 次

1	これまでの経緯-----	1
2	笠間市消防団の現状-----	1
3	笠間市消防団の課題-----	3
4	統合再編によるメリット・デメリット-----	3
5	統合再編による消防力について-----	4
6	笠間市消防団統合及び施設等整備計画-----	4
7	統合再編後の分団員数について-----	10
8	消防団員の確保等対策について-----	10
9	今後のスケジュール-----	11
 【資料】		
1	笠間市消防団統合再編後配置図-----	12

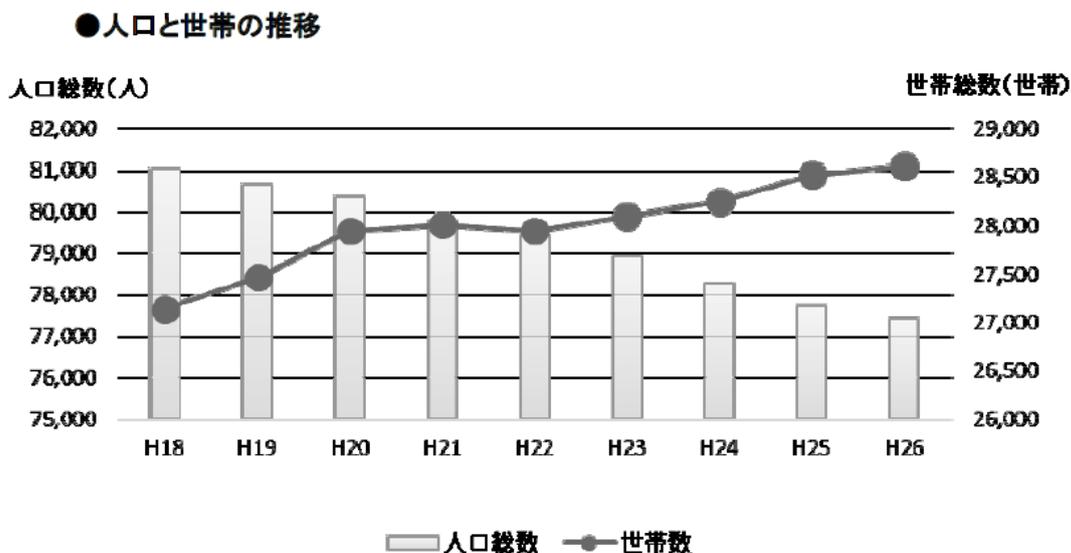
1 これまでの経緯

笠間市消防団は、市町合併後 10 年を迎え、人口減少、少子高齢化、就業形態の変化等により入団希望者が減少、詰所や消防車両の老朽化など課題を解決するために、笠間市消防団のあり方に関する検討委員会（以下「消防団あり方検討委員会」という。）を平成 27 年 6 月に設置し、笠間市における消防団の課題を検討し、消防団の円滑な運営を図るため審議してきました。

消防団あり方検討委員会において、消防団の機能強化や効率的運用を図るためには、消防団組織の見直しが必要との結論に達し、地域と消防の実情や地域特性を熟知し、現場において活動している消防団の意見を十分に踏まえて、消防団の統合再編案が提案されました。

このたび、将来に備えて、地域防災の中核となる消防団の体制を整備するため、検討委員会報告書をもとに、笠間市消防団審議会（以下「消防団審議会」という。）への諮問を行い、それを踏まえて、「笠間市消防団組織等整備計画」を策定するものです。

笠間市の人口と世帯数の推移



2 笠間市消防団の現状

笠間市消防団は、団長、副団長、本部員及び 46 個の分団で構成されており、分団の地区ごとの内訳は、笠間地区が 19 個分団(第 1 分団から第 19 分団)、友部地区が 15 個分団(第 20 分団から第 34 分団)、岩間地区が 12 個分団(第 35 分団から第 46 分団)です。

また、団員の加入状況は次表のとおりです。

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
団員現数	766 名	769 名	771 名	764 名	747 名

新入団数	47名	52名	62名	45名	44名
退団者数	50名	58名	53名	62名	—

*過去5年間の新入団員数は平成25年度を境に減少しています。

(1) 平日の日中に出動可能な団員数調査結果

1個分団あたりの分団員数は、概ね15~20名であるが、そのうち平日の日中に出動可能な団員数は、多い分団で15名、少ない分団では2名となっています。

消防団活動に最低限必要とされる出動可能な団員数3名以下の分団が9個分団あり、日中の活動に支障をきたす可能性が高くなっています。

(2) 消防団詰所や車両等の老朽化等

消防団の詰所や車両装備については、詰所は、築31年を超えるものが6棟、消防車両は、使用期間が21年を超える車両が12台あり、老朽化が進んでおり改築や新車両など装備の更新が必要になってきています。

ア 詰所の老朽化

笠間市消防団は第1分団から第46分団まであり、消防団詰所は46か所あります。

老朽化が進む中、平成20年度に2カ所、平成21年度に1ヶ所、平成22年度に1ヶ所更新しています。平成23年度から27年度にかけて更新している詰所はありません。

平成23年の東日本大震災時に被害を受けた詰所は、修理完了しています。

表 詰所経過年数

(基準：平成27年度)

	10年 以下	11~ 15年	16~ 20年	21~ 25年	26~ 30年	31~ 35年	36~ 40年	41~ 45年	46~ 50年
詰所	7棟	13棟	4棟	6棟	10棟	2棟	1棟	2棟	1棟

イ 車両の老朽化等

笠間市消防団は、46個分団で、車両46台を有しています。車両も老朽化が進んでおり、平成21年度に3台、平成25年度に1台更新しています。新規登録後、20年を経過した車両12台は、消火作業に重要なポンプ部分のオーバーホールを行い対応しています。

また、消防車がマニュアル車のため、オートマチック車限定免許の若い世代が運転できないなどの問題が生じており、オートマチック自動車への更新が望まれていますので、原則として新たに購入する消防車両はオートマチック車とすることや、既存車両の運転を可能とするため、マニュアル車運転の免許を消防団員が取得するための支援措置も考慮する必要があります。

装備についても、大規模災害等への対処を考慮しながら、安全対策、救助、情報通信機等の装備について、現在の技術革新状況をふまえ一層の充実を図っていくことが必要です。

表 車両経過年数 (基準：平成 27 年度)

	5 年以下	6～10 年	11～15 年	16～20 年	21～25 年
車両	4 台	6 台	8 台	16 台	12 台

3 笠間市消防団の課題

消防団は、これまで火災をはじめとする人災や自然災害に対処し、笠間市の常備消防等と連携し、地域の中核となる防災力として大きな役割を果たしてきており、地域の安心・安全確保の中核として地域の人々から、高く評価され信頼を集めています。

特に 2011 年 3 月 11 日の東日本大震災に際しては、いち早く地域の見回りや被害状況の確認をするなど地域の避難・復旧に大きく貢献し、改めて消防団の重要性が認識されています。

しかしながら、人口減少、少子高齢化、サラリーマンの増加による新入団員の確保や平日(日中)出動可能な団員の減少等に伴う団員の確保、詰所や消防車両の老朽化により更新要望が高まっているなど大きな課題があります。財政事情も厳しい中、市町合併後 10 年を迎え、それぞれの課題を解決する一つ的手段として、消防団の効率的運用や分団の統合再編による消防団組織の見直しが必要です。

4 統合再編によるメリット・デメリット

	メリット	デメリット
消防団	<ul style="list-style-type: none"> ・ 団員確保が容易になる ・ 消防資源を効率的に運用できる ・ 指揮統括が容易になる 	
分団	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安定的な団員確保による機能強化 ・ 消防団の管轄区域の人口が多くなり、団員確保がやりやすくなる ・ 消防資源の効率的な運用が可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 管轄区域が広くなり、分団によっては出動回数が増えることが予想される
消防後援会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消防団の管轄区域の人口が多くなり、団員確保がやりやすくなる ・ 後援会費を負担する世帯が増えることによる一戸あたりの会費負担軽減や、後援会予算の増額 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 後援会の統合再編等に調整が必要となる

行政	<ul style="list-style-type: none"> ・ 統合再編により、消防資源を集中できる ・ 効率的な運用 ・ 長期的な経費削減 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 短期的な経費の増額
----	--	---

※ 今後、上記の内容を踏まえ、消防団組織再編に向け、消防団・各分団・消防後援会・行政が協力し、団員確保や円滑な消防団運営等が行えるよう連携を検討していきます。

5 統合再編による消防力について

国が示す消防力の整備指針は、平成 12 年に全部改正が行なわれ、それまでの必要最小限の基準から、市町村が適正な規模の消防力を整備するにあたっての指針へと性格が改められ、市町村の自主的要素が拡充され整備の目標が定められました。

市街地と準市街地には整備基準が定められていますが、それ以外の地域の整備基準は、それぞれの市町村の人口や財政規模、道路状況など地域の特性に違いがあるため、地域の実情によるものとなっています。

これまでの笠間市消防団の消防力は、整備指針に照らし合わせると概ね満たしており、近年、道路網の整備が進んでいることや計画的に消防水利を設置しているなどから、消防車両の機動性や消防力を十分発揮できる環境にあります。

また、小型動力ポンプから消防ポンプ自動車に更新するなど、最新の消防車両を配備することにより機動力の向上が図られ、統合再編後の消防車両台数の減少をカバーできます。

さらに、統合再編後は出動団員数の増加が見込まれるので、消防団と常備消防が更なる連携強化を図り対応し、これまで以上に地域の安心・安全を確保していくことは十分可能です。

6 笠間市消防団統合及び施設等整備計画

(1) 統合再編案の考え方について

統合再編案を策定するに当たっては、消防団あり方検討委員会において、次に掲げる基準等の幅広い観点から協議・検討することとされました。

- ア 地区集落人口・世帯の動向
- イ 地域の特性・実情
- ウ 道路等交通体系の整備状況
- エ 常備消防署との距離
- オ 近隣消防団との距離
- カ 車両、装備等の状況

(2) 統合再編案について（46分団から33分団に再編。）

具体的な統合再編案については、地域や消防の実情、地域特性を熟知し、現場において活動いただいている消防団の皆様数次にわたって検討いただいたうえで、消防団あり方検討委員会で協議してまとめています。

消防団審議会においても当該案について改めて検討し、適当であるとの審議結果に至っているものであります。

統 合 再 編 案

笠間地区(19個分団→13個分団)「分団名」カッコ内の数字は旧分団名											
		分団名	所在地	種別	団詰所間(直線距離)	各消防署からの直線距離	詰所経過年数	構造	車両経過年数	世帯数	団員数 H27.5.1現在
1		第1分団(5)	来栖47番地10	自動車ポンプ	2分団(1.4Km)、3分団(0.9Km)、17分団(1.4Km)、18分団(1.8Km)	2.2km	26年	RCB造2F	20年	1431	14
2		第2分団(4)	石井2068番地	自動車ポンプ	1分団(1.4Km)、16分団(0.7Km)、3分団(1.4Km)	0.8km	31年	W造2F	22年	1324	16
3	統合	第3分団(12)	来栖1044番地2	小型ポンプ	1分団(0.9Km)、2分団(1.4Km)、8分団(1.8Km)	2.3km	11年	W造2F	22年	381	13
		第4分団(13)	本戸3154番地	自動車・小型	5分団(2.5Km)、7分団(2.4Km)、19分団(4.0Km)	5.9km	21年	W造2F	19年	397	12
										778	25
4	統合	第5分団(16)	福原6402番地2	小型ポンプ	6分団(0.4Km)、4分団(2.5Km)	7.2km	13年	W造2F	1年	348	16
		第6分団(17)	福原2185番地5	自動車ポンプ	5分団(0.4Km)	7.1km	6年	鉄骨造り2階建て	17年	492	20
										840	36
5	統合	第7分団(18)	稲田2307番地12	自動車ポンプ	4分団(2.4Km)、8分団(0.7Km)	4.1km	12年	W造2F	19年	444	16
		第8分団(19)	稲田3367番地2	小型ポンプ	7分団(0.7Km)、3分団(1.8Km)	3.6km	11年	W造2F	22年	432	15
										876	31
6	統合	第9分団(10)	大郷戸964番地	小型ポンプ	11分団(1.8Km)、10分団(1.6Km)	2.9km	15年	W造2F	21年	153	15
		第10分団(9)	片庭1411番地	小型ポンプ	11分団(1.9Km)、9分団(1.6Km)	3.3km	15年	W造2F	21年	143	14
										296	29
7	統合	第11分団(8)	箱田2216番地	小型ポンプ	9分団(1.8Km)、12分団(1.5Km)、10分団(1.9Km)	1.4km	14年	W造2F	22年	411	15
		第12分団(11)	寺崎980番地	自動車ポンプ	11分団(1.5Km)、15分団(1.0Km)	0.6km	12年	W造2F	18年	640	15
										1051	30

統合再編案

8		第13分団(7)	飯田891番地7	自動車・小型	14分団(4.1Km)	3.4km	14年	W造2F	20年	349	15
9		第14分団(6)	大橋1595番地2	小型ポンプ	13分団(4.1Km)	7.3km	15年	W造2F	21年	527	16
10		第15分団(1)	笠間1136番地1	自動車ポンプ	16分団(0.6Km)、12分団(1.0Km)	1.0km	28年	RC造2F	5年	822	14
11		第16分団(2)	笠間74番地4	自動車ポンプ	2分団(0.7Km)、15分団(0.6Km)、17分団(1.1Km)	0.9km	7年	S造2F	23年	484	15
12		第17分団(3)	笠間2777番地1	自動車ポンプ	1分団(1.4Km)、15分団(1.3Km)、16分団(1.1Km)	2.0km	15年	W造2F	5年	863	15
13	統合	第18分団(14)	南吉原181番地	小型ポンプ	1分団(1.8Km)、19分団(2.3Km)	3.8km	15年	W造2F	23年	527	14
		第19分団(15)	上加賀田187番地3	小型ポンプ	4分団(4.0Km)、18分団(2.3Km)、20分団(2.5Km)	5.9km	49年	1F:RCB、2F:W	22年	175	11
										702	25

統合再編案

友部地区(15個分団→12個分団)「分団名」カッコ内の数字は旧分団名											
	分団名	所在地	種別	団詰所間(直線距離)	各消防署からの直線距離	詰所経過年数	構造	車両経過年数	世帯数	団員数 H27.5.1現在	
1	第20分団(1)	平町85番地3	自動車ポンプ	19分団(2.5Km)、21分団(0.9Km)、27分団(1.6Km)	1.5km	7年	S造2F	18年	811	15	
2	第21分団(2)	大田町419番地3	自動車ポンプ	20分団(0.9Km)、25分団(1.6Km)、26分団(1.6Km)	2.0km	9年	S造2F	19年	935	15	
3	統合	第22分団(13)	下市原1765番地2	自動車ポンプ	23分団(1.1Km)、25分団(2.0Km)	3.3km	43年	S造1F	20年	188	14
		第23分団(14)	小原4189番地1	自動車ポンプ	22分団(1.1km)、24分団(1.7Km)	3.9km	10年	S造2F	20年	372	11
		第24分団(15)	小原2256番地	自動車ポンプ	23分団(1.7Km)、25分団(2.0Km)	3.1km	43年	S造、詰所なし	18年	493	12
									1053	37	
4	第25分団(7)	南友部434番地7	自動車ポンプ	21分団(1.6Km)、22分団(2.0Km)、24分団(2.0Km)	1.4km	16年	S造2F	19年	545	16	
5	第26分団(3)	東平2丁目1470番地1439	自動車ポンプ	21分団(1.6Km)、29分団(0.7Km)、30分団(2.0Km)	0.7km	19年	S造2F	18年	1391	19	
6	第27分団(4)	南小泉761番地2	自動車ポンプ	20分団(1.6Km)、28分団(1.1Km)、42分団(2.1Km)	2.4km	30年	S造2F	7年	216	15	
7	統合	第28分団(5)	矢野下1921番地1	自動車ポンプ	27分団(1.1Km)、29分団(2.3Km)、32分団(1.7Km)	2.3km	29年	S造2F	13年	523	16
		第29分団(6)	中央2丁目1470番地1464	自動車ポンプ	26分団(0.7Km)、28分団(2.3Km)、30分団(1.9Km)	0.8km	38年	S造2F	11年	2212	15
									2735	31	
8	第30分団(8)	鯉淵6679番地5	自動車ポンプ	26分団(2.0Km)、29分団(1.9Km)	2.5km	29年	S造2F	13年	2215	15	
9	第31分団(10)	随分附377番地1	自動車ポンプ	32分団(1.8Km)、33分団(2.3Km)	4.2km	19年	S造2F	17年	334	18	
		笠間市柏井277	小型ポンプ					2年	334		
10	第32分団(12)	旭町108番地3	自動車ポンプ	28分団(1.7Km)、31分団(1.8Km)、33分団(1.7Km)	2.9km	10年	S造2F	11年	2275	14	
11	第33分団(9)	湯崎住吉入会地2番地1	自動車ポンプ	31分団(2.3Km)、32分団(1.7Km)、39分団(1.1Km)	4.5km	29年	S造2F	7年	639	12	
12	第34分団(11)	仁古田728番地2	自動車ポンプ	31分団(2.3Km)、33分団(2.3Km)、35分団(1.3Km)、36分団(1.4Km)	6.1km	19年	S造2F	19年	324	15	

統 合 再 編 案

岩間地区(12個分団→8個分団)「分団名」カッコ内の数字は旧分団名											
		分団名	所在地	種別	団詰所間(直線距離)	各消防署からの直線距離	詰所経過年数	構造	車両経過年数	世帯数	団員数 H27.5.1現在
1	統合	第35分団(13)	安居1427番地2	自動車ポンプ	36分団(1.0Km)、34分団(1.3Km)	5.5km	28年	W造2F	11年	157	19
		第36分団(12)	安居2059番地1	自動車ポンプ	35分団(1.0Km)、37分団(1.1Km)、34分団(1.4Km)	4.6km	25年	W造2F	9年	240	19
										397	38
2	統合	第37分団(11)	押辺1203番地8	自動車ポンプ	36分団(1.0Km)、38分団(1.2Km)	3.8km	22年	W造2F	5年	196	18
		第38分団(10)	押辺3579番地2	自動車ポンプ	37分団(1.2Km)、39分団(1.2Km)、	2.9km	22年	RC造2F	19年	209	19
		第39分団(9)	土師656番地1	自動車ポンプ	38分団(1.2Km)、42分団(2.6Km)、33分団(1.1Km)	3.2km	6年	鉄骨造り2階建て	7年	269	13
										674	50
3		第40分団(4)	市野谷1357番地1	自動車ポンプ	41分団(2.3Km)、44分団(1.9Km)、45分団(2.0Km)	0.8km	32年	1F:RCB、2F:S	15年	733	16
4		第41分団(3)	下郷4446番地123	自動車ポンプ	40分団(2.3Km)、43分団(0.7Km)、45分団(1.4Km)、42分団(1.4Km)	1.5km	29年	S造2F	9年	1609	20
5		第42分団(5)	下郷599番地1	自動車ポンプ	43分団(1.5Km)、46分団(2.4Km)、27分団(2.1Km)、41分団(1.4Km)	2.7km	21年	S造2F	14年	461	19
6		第43分団(1)	下郷3853番地5	自動車ポンプ	41分団(0.7km)、42分団(1.5Km)、46分団(1.7Km)、45分団(1.5Km)	2.1km	28年	S造2F	11年	746	19
7	統合	第44分団(2)	市野谷389番地	自動車ポンプ	40分団(1.9Km)、45分団(1.0Km)	1.6km	28年	RCB造2F	7年	255	16
		第45分団(8)	泉3154番地4	自動車ポンプ	40分団(2.0Km)、41分団(1.4Km)、44分団(1.0Km)、43分団(1.5Km)	1.3km	12年	W造2F	21年	381	18
										636	34
8		第46分団(7)	上郷1742番地3	自動車ポンプ	42分団(2.4Km)、43分団(1.7Km)	3.6km	21年	S造2F	21年	304	18

(3) 統合する分団の整備方針について

統合再編後に使用する詰所・車両は、築年数が少ない詰所、経過年数が少ない車両を使用することを基本とするが、統合再編する分団によっては詰所の地理的条件等を考慮し、建て替えも視野に入れるが、統合再編後に使用する詰所については、詰所の状態を確認しながら維持・管理していきます。

経過年数の多い車両同士の場合は、更新を視野に入れ統合再編する分団を優先的に整備していく。また、統合再編後に経過年数の少ない車両が残る場合は、他の分団の車両と入替えを行なうこととします。

(4) その他の分団の整備方針について

ア 詰所

詰所の構造・築年数を考慮し、詰所の状態を確認しながら、維持・管理していきます。

イ 車両

車両経過年数 20 年以上で、既にオーバーホールした車両は、登録後 25 年を目安に更新の計画をしていきます。

オーバーホールした車両は、以下のとおりです。

第 1 分団、第 2 分団、第 13 分団、第 16 分団、第 22 分団、第 45 分団、
第 46 分団

7 統合再編後の分団員数について

市町合併前の笠間地区・友部地区は定員 15 名、岩間地区は定員 20 名で市町合併後も各地区の定員数で消防団活動をおこなってきました。

統合再編後は、一時的に分団員数が多くなる事が予想されますが、分団員の意思を尊重しながら、統合再編後 5 年を目安に 1 個分団の定員数について、15 名から 20 名以上が維持できるようにしていきます。

8 消防団員の確保等対策について

ア 消防団員の確保については、若年層の入団を促進するため、区長・後援会長・団本部員・分団長との協力体制を確立し、家族も含めて消防団への理解が得られるよう進めていきます。

イ 分団長の退団年齢の引き上げや、女性、定年退職者、消防団 OB、地域勤務者等の活用も重要であり、地域交流などを通して団員活動を PR していき団員確保に努めてまいります。

ウ 消防団活動を市民や学生、事業者等にもっときめ細かに PR し、理解を深めて頂くことが重要であり、また、被雇用者が多くを占める現在、事業者の消防への理解、協力が不可欠であり、消防団協力事業所表示制度や連携協定等を利用し、協力関係をさらに強化していきます。

エ 訓練等を行う上で、分団員に過剰な負担とならないよう工夫するなど負担の軽減策を講じることを検討していきます。

オ 消防団と消防署は定期的に訓練等を実施していますが、今後、自主防災組織と消防団の連携活動を強化し、地域の安心安全確保を充実させる必要がありますので関係機関と調整を図っていきます。

カ 消防団は、地域の人たちが自ら地域の安心・安全確保のために献身的に努めて頂いている活動であり、消防後援会などがその活動を地域で支えることが重要ですので、今後も消防団の活動を支える地域の仕組みの充実が図られるよう努めていきます。

キ 消防団は、地域のボランティアですが、同時に危険な仕事にもあたる性格から非常勤特別職の地方公務員でもあります。その処遇の充実については、「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」に定められたところですが、国等の動向を見ながら、処遇の充実を図って行くことを検討していきます。

ク 火災のほか今後の気候変動のなかでの災害の増大や首都直下型地震への対処など、今後も地域防災対策の強化が必要となっており、消防団は、常備消防、自主防災組織と連携した地域防災の中核として益々その役割を果たしていくことが求められておりますので、その機能の強化を図っていきます。

ケ 消防団は、その地域コミュニティになくしてはならないものであり、消防団の存在意義を子どもときから理解されるよう、方法を工夫してあらゆる機会に広報し、防災教育を進めていきます。

コ 地域防災力の中核となる消防団は、自主防災組織等の教育訓練に指導的な役割が期待されているところであり、消防団員の一層の能力・資質の向上が図れるよう教育訓練環境の充実を図っていきます。

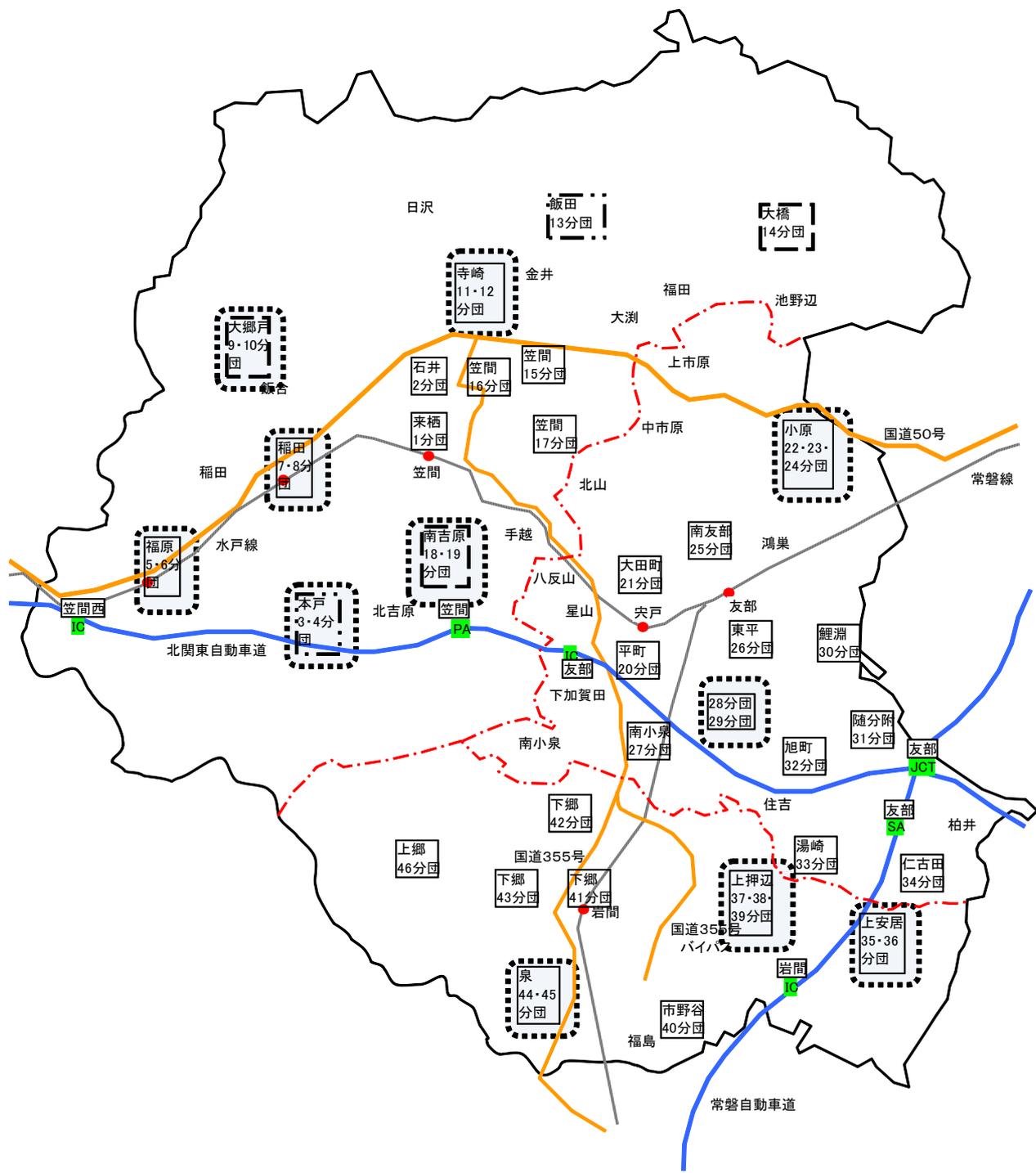
9 今後のスケジュール

	平成 28 年			消防団の統合再編の時期については、平成 27 年度内に消防団審議会・庁議で結論が出れば、平成 28 年 4 月から笠間地区・友部地区・岩間地区で説明会を実施し、平成 30 年 4 月までの統合完了を目指して取り組んでいきます。
	1 月	2 月	3 月	
政調庁議	⇒		⇒	
整備計画				
全協			⇒	
消防団審議会	⇒	⇒		
パブコメ	⇒			

※ 笠間市消防団審議会メンバー

(笠間市議会議長・学識経験者・区長会正副会長・消防後援会長・消防団正副団長) 委員 12 名

笠間市消防団統合再編後配置図 (33分団)



- 分団は自動車ポンプ 35個分団
- 分団は小型ポンプ 9個分団
- 分団は親子ポンプ(自動車・小型ポンプ) 2個分団